



乳牛の暑熱対策など 酪農の夏を紹介

菊池地域は西日本有数の酪農地帯です。夏に生乳の需要期を迎えますが、環境の変化に敏感な乳牛は夏の暑さにストレスをかかえます。そんな牛を守るため、牛舎では扇風機やミストを使用した対策を行い、乳量アップを図っています。

地元メディアが酪農牛舎を取材 R7.8.29

夏に乳牛を暑熱ストレスから守るための対策を理解してもらうため、地元メディアを招き東哲哉組合長、酪農部会坂本克彦副部会長、酪農課担当者が酪農業の現状を伝えました。

取材班は乳牛や牛舎を見学・撮影。坂本さんが現場で説明し、質問にも答えました。後日テレビニュース等で放送されました。消費者の皆さんに生産現場の状況を伝えることができたと思います。

東組合長は「部会一丸となって良質な生乳生産に努めている。今後もメディアを通じた情報発信の強化を図り、消費者に訴求していきたい」と話しています。

※これからも農業の現場を伝えるための企画を考え、実行してまいります。



暑熱対策の説明をする坂本さん



ミストを浴びてリラックス



メディアの質問に答える
東組合長(右)

令和6年度 九州管内生乳品質共励会

畜産部酪農課

最優秀賞に右田さん

生乳品質共励会は酪農家の良質な生乳生産に対する意欲向上を図るため、九州生乳販連が毎年行っています。毎月2回の成分検査を行い、1年間の結果でその年度の優秀者が決まります。九州管内には960戸の酪農家があり、令和6年度は20位以内に酪農部会より4人が入賞しました。

※酪農部会では、支部ごとに乳質改善巡回も行い
良質な生乳生産に励んでいます。

良質な自給飼料生産 コーンハーベスター大活躍

安全・安心の自給飼料を生産するために、管内では飼料用トウモロコシを夏と秋の二期作で飼料確保に努めています。夏の猛暑での収穫は大型のコーンハーベスターが大活躍。もうすぐ秋の収穫です。

〈入賞者〉

3部優秀賞＝右田祐樹
(3年連続優秀賞を受賞)

優秀賞5位＝梁池 朋幸

9位＝西本 敏雄

17位＝山下 誠也



飼料用トウモロコシ収穫